

新分野への「挑戦」発表

第4回建設トップランナーフォーラム

2日間に650人が参加

新事業や新分野への進出に挑戦する建設業者が自らの取り組みを発表す

「第4回建設トップランナーフォーラム」が、7月23、24日に東京都港区の建築会館で開催され、2日間で延べ約650人が参加した。24日は、オ

ホーツク21世紀を考える会(OK21)の宮田博行

委員長と松木俊広が

ホーツクライフ委員長が地域貢献活動を報告した。大会2日目は3会場に分かれ、ワークショップ形式で、アグリビジネス、環境・新技術、地域再生、環境・森林再生の計22事例を紹介。本道からは八景建設(七飯町)の保育サービス事業と、しずお農場(士別市)の農業参入の2件の発表があった。

ホール会場のミニフォーラムでは、弘前大学院の佐々木純一郎教授が座長を務め、OK21の宮田氏と松木氏がパネリストとして参加。観光振興や地域SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)事業に挑戦している社会貢献活動について発表した。事例発表の終了後に

は、国土技術研究センターの大石久和理事長が講演した。大石理事長は災害の多い日本の国土を「脆弱(ぜいじやく)列島」と表現。雇用を維持し、災害から地域を守るため、積極的に公共投資をすべきと訴えた。さらに、地方の活性化や雇用の創出に貢献するフォーラム参加企業の取り組みにエールを送った。

最後に、建設トップランナーフォーラム顧問の米田雅子慶応大学教授が総括講演。今回で最終回を迎えた建設トップランナーフォーラムの活動を振り返るとともに、ボランティアとしてフォーラムを支えてきた組織を「建設トップランナー倶楽部」として継続し、電子メール配信による情報交換などを通じ、引き続き地域建設業を支援していく考えを述べた。



「産学官連携で地域活性化を」をテーマにしたミニフォーラム